

2026 年 4 月 27 日  
富士ソフト株式会社

## 富士ソフト、2026 年度新体制を発表 -CxO 制・BU 制を軸に「富士ソフト Gen.2」への変革を始動

富士ソフト株式会社（代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：室岡 光浩）は、2026 年度より開始する新たな経営体制および組織改革の全体像を発表しました。

本新体制は、AI・IT・OT（Operational Technology）を統合し、止められない社会・産業システムをエンドツーエンドで担う S1er として、持続的な企業価値向上を実現することを目的としています。富士ソフトは本取り組みを「富士ソフト Gen.2」と位置づけ、経営・組織・事業モデルの変革を本格的に推進してまいります。

### 新体制の背景：市場環境の構造的変化と変革の必要性

近年、社会・産業を取り巻く環境は、サプライチェーンの不確実性、人材不足の常態化、IT 投資の「効率化」から「事業中核化」への変化など、大きな転換点を迎えています。

特に生成 AI の進展により、S1er には単なる開発・運用の受託ではなく、経営変革や事業成長に伴走するパートナーとしての役割が強く求められています。

こうした環境変化を踏まえ、富士ソフトは従来の人月型・プロジェクト型中心のビジネスモデルから、オフリング（型化）を軸とした再現性ある成長モデルへの転換を進めるとともに、組織・ガバナンスの抜本的な見直しに着手しました。

### 2026 年度新体制の概要

#### ①CxO 制の導入（経営変革と専門性の強化）

CEO を中心に、2 名の Co-COO と、CRO、CMO、CHRO、CAO、CTO、CFO など、各専門領域を担う CxO 体制を整備。BU 横断での戦略策定・実行、データドリブン経営、投資判断の迅速化、標準化を推進します。

#### ②BU 制（ビジネスユニット制）の導入（成長責任の明確化）

- ・組込／制御ビジネスユニット
- ・社会インフラビジネスユニット
- ・ソリューションビジネスユニット

の 3BU 体制とし、それぞれに P/L 責任を持たせることで、事業成長の実行力を高めます。

#### ③クロスマトリクス経営の推進

「縦で稼ぎ、横で鍛え、中央で回す」をキーワードに、BU による事業推進と CxO による横断機能を掛け合わせ、グループ全体でのシナジー最大化を図ります。

### 企業理念の再定義と人・組織への浸透

新体制の中核として、創業以来培ってきた「富士ソフトの精神」を継承しつつ、パーパス・ミッション・ビジョン・行動指針

(Code of Values) を再定義しました。

「社会の発展とお客様の価値創出に寄り添う、かけがえのない存在であり続ける」

この企業理念のもと、タウンホールミーティングや CEO との直接対話などを通じて、全従業員との継続的なコミュニケーションを図り、変革を自分ごととして進める企業文化の醸成に取り組んでいます。

## 今後について

富士ソフトは 2026 年度を「変革の基盤構築フェーズ」と位置づけ、今後、事業戦略・技術戦略・人財戦略などの詳細を段階的に発信していく予定です。年間を通じた定期的な情報開示を通じて、変革の進捗を継続的にお知らせしてまいります。

## お問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション室 広報窓口

TEL : 050-3000-2735

E-MAIL : mkoho@fsi.co.jp

※ 記載されている会社名および商品名は、各社の登録商標または商標です。